ゴールドマンサックスの元面接官が最も関心した逆質問

「面接官さんが携わった、最も面白かったプロジェクトやお仕事はどんな内容でしたか？」

ゴールドマンサックスで１００人以上の採用候補書と面接を行った人によると、この質問は面接官自身の過去の経験を振り返って考える機会を与えると共に、この質問はお仕事の詳細な部分を述べる必要性があるので、詳細な仕事内容を通して採用候補者が仕事の具体的なイメージを出来るようになると言う利点があります。この質問をされる事により、どんな仕事がエキサイティングで、そんなお仕事をもっと作り出したいと思わせるような質問だと言います。

面接は面接官が採用候補者に質問をすると言う一方通行になりがちですが、このような質問をする事でより会話のような面接になり、何よりも人間は自分の事を話すのが好きと言う心理的な部分を上手く刺激する質問ではないでしょうか？